



署名と要望書を提出する波辺えり日本劇作家協会会長 写真提供：WeNeedCulture

なければならぬので、現実には即した動きが取りにくいんですね。だから私たちとしては、少ない額でも被った損失を補填してほしいのに、補償は無し、という大前提がまずあって、新たな事業を起こす際の助成という形でしか支援を得られず、そこが現実とそぐわないものになっていたりします。

とはいえ、最初は「予算はつかないよ」と言われていたのに、ちゃんとついていたのは、現場が声を上げたから。今回は若い世代の人たちも積極的に参加したことで、政治や社会に興味を持つようになったようだし、私も政治家や官僚、ライブハウスやミニシアターの方たちと直接関わりを持たせたことが、よい財産になりました」

### 採算度外視の運営でも 続けて行くことが大事

こうして現場の声が届いたことで、この時には文化庁からは560(570とも)億円、経産省からは878億円の支援が実現・具体化した。

「ほんとうにこの助成金には、助けられています。ありがたいことです」と、前出の安孫子さんは感謝を隠さない。松竹が経営する歌舞伎座は、3月から7月まで完全

休館し、8月から初の四部制で再開。座席を50%以下とする行政の指導(9月17日に解除)に従い、年内は半分以下の800席前後で、一興行一カ月の伝統をキープした。21年1月からは三部制に移行するが、客席数は微増で50%を維持する。

「歌舞伎座で歌舞伎を12カ月間上演できるようにしたのは平成に入ってからで、前会長の永山(武臣)は、それをとても喜んでいました。ですからひと月の上演期間を短くすることは、あまりしたくない。稽古で数日閉まる以外は、いつでも歌舞伎を観られるようにしておきたいんです。そしてもちろん、お客様の安全が第一です。接触を避けるために中止していたイヤホンガイドの貸し出しや筋書の販売も少しずつ始め、幕間も1月から1回だけ入れ始めるなど、慎重すぎるほど慎重に進めています。演劇業界全体のことを考えても、少しずつ元に戻していくしかないと思っています」

採算度外視の運営は、まだしばらく続きそうだが、

「俳優さんにも切実な興行実態については明らかにして、よくわかっていただいています。これまで舞台の配信に否定的だった方がOKをくださったり、若手の方たちは、各方面に積極的に動いてくださっていて、とにかく歌舞伎界一丸となって、この苦難を乗り越えようという態勢になっています」

コロナで大打撃を負い、なんとか活路を見出そうと奮闘する舞台人たち。文化芸術を大事に思う国民の声と、理解ある国の支援が、これから先も必要不可欠だ。

### 詩森ろばさんが脚本・演出を務める『岬のマヨイガ』

岩手県から発信! 震災からの再生を描いた柏葉幸子の児童文学作品『岬のマヨイガ』が舞台化、上演される。

21年3月17日(水)~21日(日) 会場:東京芸術劇場 シアターウエスト  
原作:柏葉幸子 脚本・演出:詩森ろば 人形デザイン:沢別行  
出演:竹下景子 栗田桃子 ほか 料金:5,000円 U18 1,000円 岩手公演:2月6日(土)宮古市民文化会館 大ホール、2月9日(火)盛岡劇場 メインホール、2月11日(木祝) 二戸市民文化会館 大ホール、2月13日(土)久慈市民文化会館 大ホール  
[https://iwate-arts-miyako.jp/project\\_mb/produce\\_mayoiga/](https://iwate-arts-miyako.jp/project_mb/produce_mayoiga/)

松竹株式会社 <https://www.shochiku.co.jp/>

●緊急事態舞台芸術ネットワーク <https://www.jpasn.net/>

●WeNeedCulture—文化芸術復興基金をつくらう—

<https://weneedculture.org/>